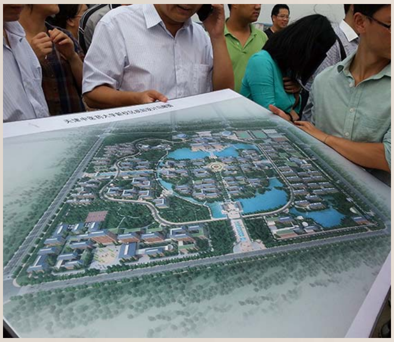
日本人中医診療記
その 12

天津中医薬大学　**柴山周乃**



今年の冬もまた，11 月 15 日から暖気（スチーム暖房）が稼動を開始しました。部屋が暖かいのは嬉しいのですが，燃料となる石炭の燃焼量が増えるため，ここのところ大気汚染は以前にも増して深刻です。天津市民は大気汚染についてわりと無頓着で，ＰＭ2.5 についてメディアで騒がれているわりにはマスクを着けている人が少なかったですが，ここに来て，マスク人口がずいぶん増えているように感じます。大学のキャンパスでも，かなりこだわり，高価な３Ｍマスクを着けている学生をちらほら見かけます。暖気が終了する３月 15 日まで，深刻な大気汚染との闘いが続きそうです。

去る９月 16 日，千葉大学・齋藤康学長ご一行７名がわが校を訪問され，張伯礼学長，高秀梅副学長，李慶和副書記はじめ各学部のトップが同席し，正式に学術交流を結ぶ調印式が行われました。今後，医学・薬学方面での共同研究，教員の学術交流，そして学生の交換留学が積極的に行われることを期待したいと思います。2014 年度から７年制の学生を２名派遣する計画があり，選考規定はかなり厳しいものです

千葉大学調印式

新キャンパス完成予想図

新キャンパス建設現場

が，私が受けもつ学生のなかから１名選抜されればと願っています。

天津中医薬大学は，2015 年に，手狭な現キャンパスから車で約 30 分の郊外に移転予定です。９月末に新校舎の建設現場を視察してきました。新キャンパスは静海県・団泊新城西区に，総面積 2000 亩（約 133.34 万平方メートル）というだだっ広い用地に建設が進められています。新キャンパスのデザインは，中国国内で公募のすえ決まりました。道路をはさみ，向かい側に天津医科大学の新校舎も建設中で，同区内には斬新なデザインのサッカー競技場やテニス競技場，コンベンションセンターも建設され，これらはすでに完成し使用されています。新キャンパスには人造湖，薬草園，さらには中国一の規模となる中医薬博物館もできるとのことで，完成が今からとても楽しみです。ただ，今のように校舎間の移動は徒歩では難しそうです。

今回は，テニスエルボー，上腕骨外側上顆炎の中医治療についてお話しますが，その前に，前号の「子宮腺筋症」のケースレポートで紹介した後輩の治療経過についてご報告します。中薬の服用を開始し７カ月でＱＯＬはかなり改善され，検査データも，2013 年１月の CA19-9（正常値：０～ 37）：94.4 が９月には 30.4 と正常値内になり，また CA125（正常値：０～ 35）：441 も 150.7 と，正常値

に比べまだまだ高めですが，ずいぶん改善されました。内診でも，卵巣・子宮ともに以前より落ち着き，貧血もぎりぎりながら合格ラインということです。主治医の先生も中薬が効いているのかもしれないとの見解で，毎月受けていた診療も次回は５カ月後でいいと聞きました。多方面にわたり病状が改善され，私もほっとしています。本人から「中薬を飲む前は，腫瘍マーカーの結果が出るたびにため息がもれ，暗い気持ちで帰宅していましたが，中薬を飲んで半年でＱＯＬが上がり，生理中の症状，そして検査データにも変化が見られ，希望が見えてきました。この気持ちを言葉でどうやって表せばいいのか……」と嬉しい便りが届きました。もちろん，１カ月に１度，体調の変化を知らせてもらい，そのつど韓氷教授の指示を仰いでいます。この調子で，CA125 の数値ももう少し下がってくれることを期待したいと思います。

さて，今回は「上腕骨外側上顆炎の中医治療」についてお話します。じつは，ＣＡ時代に右手首腱鞘炎を患い，東京で人生初の針・パルス治療を受けましたが，私が緊張しすぎたため治療に失敗し，その後，数カ月マッサージ治療を受けて完治しました。しばらくその痛みを忘れていましたが，2012 年秋，20 年ぶりに再発しました。数回，推拿治療を受け，良くなりましたが，１年後に今度は右側上腕骨外側上顆炎を発症してしまいました。今学期は，講義，外来に加え，学長学術本の仕上げ作業でかなり右腕を酷使し，とどめは「冷え」と自分で分析しています。最初にも触れましたが，暖房が入るのが 11 月 15 日からですので，10 月末から半月は，厚着はするものの，冷蔵庫のような教室・病院で寒さとがまん比べです。足元と首まわりにはかなり気をつけていましたが，なんとなく違和感のあった右前腕部に気をつかわなかったのが敗因です。ものをつかんで持ち上げる動作やタオルをしぼる動作をすると，肘の外側から前腕にかけて痛みが出現するという，教科書どおりの症状で，日常生活にも支障をきたし，まいりました。まわりから針灸治療がいいと言われるものの，初体験の針治療がトラウマとなり，そのうえ，本科・針灸学の講義中に暈針を起こした苦い経験から，いまだに針は打つのも打たれるのも苦手です。そこで，日本鍼灸に精通している針灸科・遠慧茹教授を訪ね，治療についてアドバイスを受け，治療は日本の針灸医師で博士課程在学中の留学生に，中国針ではなく日本の細い針で行ってもらいました。まずは，上腕骨外側上顆炎の中医治療概論からお話します。

一　定義

上腕骨外側上顆は中医学では「損筋」「痺証」の範疇に属し，おもに，慢性労損が原因で起こる。

二　病因病機

肘部外傷・労損（使い過ぎ）・風寒湿邪を感受し，局部に気血凝滞，絡脈瘀阻が起こり発症する。

三　薬物治療

養血活血・祛邪止痛・舒筋活絡法を用い治療を行う。

1．**仙鶴草湯**：①組成――仙鶴草 30 ～ 40 g・桑枝 30 g・金銀花 15 g・白芍 15 g・片姜黄 6 ～ 10 g・大棗 10 枚・甘草 3 ～ 10 g，②効用――活血通絡・緩急止痛・消腫，③主治――テニス肘

2．**化瘀通痺湯**：①組成――当帰 18 g・丹参 30 g・鶏血藤 21 g・製乳香 9 g・製没薬 9 g・香附 12 g・延胡索 12 g・透骨草 30 g，②効用――活血化瘀・行気通絡，③主治――血痺証（損傷後遺症・テニス肘・肩凝り症など）

テニスエルボーの治療

四　鍼治療

主穴――阿是穴，配穴――手三里・尺沢を取り，１日おきに１日１回行う。

五　その他の治療

灸・梅花針・抜罐・推拿などを併

用し，局部の気血疏通を心がけ治療すると，より良い効果が期待できる。

次に，私が受けた治療ですが，遠教授の指導により，合谷・曲池・手三里・尺沢・少海と筋会の陽陵泉を取穴。合谷は大和漢ディスポ鍼エコ１寸６分・３番を，そのほかの経穴はセイリン鍼Ｊ 15 タイプ No.01 を使い治療をしてもらいました。灸頭針をするとさらにいいとのことでしたが，今回使用した針は灸頭針には使えませんし，私はせき喘息があるため，煙のたくさん出る灸頭針は無理ですので，一番圧痛の強い部位に半米粒大の直接灸をしてもらいました。半米粒大という，とても小さな灸でしたが，患部が温まり，針との相互作用で痛みが少し緩和されました。

2013 年 12 月現在，わが校には 13 人もの日本人針灸医師が在籍しています。先生方から針治療，そして学生たちからは推拿治療を受け，皆さんの力をお借りし，早くこの痛みから解放されたいと思います。

利き手を患うと，こんなにも生活が不自由なのかと，あらためて健康のありがたさを痛感しました。

2013 年は，日本・中国ともに自然災害の多い年でした。2014 年，馬年の幕開けです。皆さまのご健康とご多幸をお祈り申し上げます。

祝　歓天喜地，馬年大吉！

（2013 年 12 月 24 日受理）

プロフィール
柴山周乃（しばやま・ちかの）
愛知県名古屋市出身
1996 年 日本航空株式会社・国際客室乗員部退社
1999 年 天津中医学院（現天津中医薬大学）本科入学
2006 年 中華人民共和国・中医医師資格取得
2010 年７月 天津中医薬大学・中医内科学博士課程卒業
修士課程は天津中医薬大学第二付属病院・循環器内科杜武勲教授に師事，「糖尿病性心疾患の中医病機メカニズム及び臨床治療」を研究。
博士課程は天津中医薬大学・張伯礼学長に師事，「中医および漢方医学による心疾患・脳血管疾患治療」を研究。現在は，引き続き張伯礼学長に師事し外来で診察および中国人学生の講義を担当。